

船舶事故調査報告書

平成28年3月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年10月4日 09時40分ごろ
発生場所	愛媛県今治市来島海峡 来島海士瀬灯標から真方位341°60m付近 (概位 北緯34°06.7′ 東経132°58.9′)
事故の概要	プレジャーボート誠正丸は、南進中、また、プレジャーボートかもめは、漂泊中、両船が衝突した。 誠正丸は、船首部外板に擦過傷を、かもめは、右舷中央部外板に亀裂を生じた。
事故調査の経過	平成27年10月20日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 誠正丸、0.8トン EH3-45152（漁船登録番号）、個人所有 第281-42882号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート かもめ、5トン未満（長さ5.10m） 281-8418愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷 B 右舷中央部外板に亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 ほぼ低潮時
事故の経過	A船は、約5ノットの対地速力で南進し、船長Aが左舷方に見える釣り船に注意を向けながら、手動操舵によって航行していた。 B船は、西に向首した状態で漂泊し、船長Bが、同乗者1人と共に左舷側に座り、左舷方を向いた姿勢で釣りをしていた。
分析	船長Aは、左舷方の釣り船を見ていて見張りを適切に行っていなかったことから、漂泊中のB船の存在に気付かなかったものと考えられる。 船長Bは、釣りをしていて見張りを適切に行っていなかったことから、右舷正横方から接近するA船の存在に気付かず漂泊を続けたものと考えられる。
原因	本事故は、A船の船長A及びB船の船長Bが、共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考

	えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 常時適切な見張りを行うこと。